

東京2020パラリンピック

ホストタウン相手国の試合結果

8月24日から9月5日まで開催された東京2020パラリンピックに、旭市のホストタウン相手国であるドイツ連邦共和国とザンビア共和国の選手が出場しました。

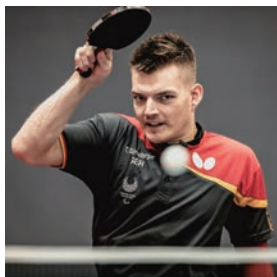
出場選手たちは障がいがある中で創意工夫を凝らし、自らの限界に挑みました。そして私たちに、逆境に立ち向かう心や共生社会に向けた多様性について教えてくれました。

ドイツ(卓球競技)

出場競技	出場選手	クラス	結果
男子シングルス	シュミットパーガー選手	C 3	銀メダル
	パウス選手	C 5	金メダル
女子シングルス	ミコラシェク選手	C 4	ベスト8
男子団体	ブリュレ選手	C 3	銀メダル
	シュミットパーガー選手		

※太字はボルシアデュッセルドルフ所属の選手

※その他種目に計8人の選手が出場し、合計5個のメダルを獲得



2つの銀メダルを獲得したシュミットパーガー選手

ザンビア(陸上競技)

出場競技	出場選手	結果
女子400m(視覚障がい)	ムンガ選手	予選敗退



ムンガ選手

ザンビアのパラアスリートへ

応援メッセージを届けました

7月30日に在ザンビア日本大使館で行われた東京パラリンピック壮行会で、旭市長が陸上女子400mに出場するモニカ・ムンガ選手に向けて「障がいを乗り越え、自分の限界に挑む姿が旭市に勇気と感動を与えてくれると信じています」との応援メッセージを送り、健闘を祈りました。



市長メッセージ紹介の様子

注目！パラアスリートたちの活躍！

〈ドイツ連邦共和国〉

旭市にゆかりのある選手が活躍

例年旭市で行われている日独交流事業で、交流を続けているボルシアデュッセルドルフから3名の選手がドイツ代表として出場しました。

パウス選手が金メダル、シュミットパーガー選手が銀メダル2つを獲得するなど、ドイツ代表の中でも特に活躍が目立ちました。

パラ卓球の見どころは、全選手が型にはまらない、多種多様なプレースタイルを持っているところにあります。また、健常者の試合にも劣らないスピードのあるラリーや独特の戦術性など多くの魅力があり、今大会でもパラ卓球ならではの見応えのある試合が展開されました。



ボルシアデュッセルドルフ所属の選手たち

〈ザンビア共和国〉

苦難を乗り越え夢の舞台へ

今大会ザンビア唯一のパラリンピアンであるムンガ選手は、アルビノの症状に伴う視覚障害があり、レーンがうまく見えない中で足の感覚を頼りに走ります。

アフリカでは、アルビノに対する差別や迫害により命の危険にさらされてしまうこともあります。

ムンガ選手はパラリンピックに出場し、同じ境遇の人たちに勇気を与えられるように頑張りたいと語りました。

今大会では決勝進出は逃しましたが、自己ベストを大幅に更新する粘り強い走りを見せてくれました。



400mを走るムンガ選手

パラリンピック

聖火フェスティバルが開催



Photo by Tokyo2020

聖火皿に火をともし鈴木さん(右側)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により無観客となりましたが、8月18日に千葉県聖火フェスティバルが開催されました。旭市出身の鈴木来聖さんが参加し、最終グループとして、前走者からのトーチキスと聖火皿への点火を行いました。

東京2020パラリンピックの聖火の元となる火を県内全54市町村が独自の法により採火し、一つに集められた「千葉県の火」が開催都市の東京に送り出されました。

問い合わせ先

体育振興課体育振興班(☎64-1132)